

『小欲知足』

暑い日が続いています。毎年

暑さのピークを更新しています。

九月になつても、残暑は厳しいそ

うです。まだまだ熱中症には

気をつけましょう。今回は、その

暑い日の物語を書いてみました。

——今日は太陽が照りつ

けていて、なみでなく暑い日です。

のどがすっかりカラカラになった

人が、道を歩いています。

「どこかに水はないかな」

と思っていると、木でできた筒

に、きれいな水が流れているの

を見つけました。

「これはありがたい！」と、

水をガブガブ飲みました。

「いや、生き返る」

飲み終わってから、筒に向かっ

て言いました。

「もう飲み終わったから、流れ

てこなくていいよ」

それでも水は流れてきます。そ

れを見てこの人は、怒りました。

「流れてくるなと言っただ

ろ！なんで流れてくるんだ」

自分が立ち去ればすむことな

のに……

この物語が教えているこ

とは、人間の欲望についてで

す。世の人々は、欲しくなった

ものを手に入れようとします

が、入手できれば欲しい気持ち

ちは一旦おさまります。でも世

の中には、欲望を刺激してく

るものがいろいろあります。そ

れに向かつて、「もう充分だ

から、来なくていいよ」と言っ

てみても、とどまることもなく

欲望を刺激してきます。「もう

来るなといっただろう」と怒っ

てみたところで、止まってくれ

ません。智慧のある人は、

「欲望を刺激してくるものか

ら離れたいなら、自分の心を

静めて、欲望が刺激されない

ようにしなさい。」と言います。

仏教には、「小欲知足」と

いう教えがあります。まだ得ら

れていないものを欲しがらず、

すでに得たものに満足する生

き方です。そうは言っても、そ

のように生きられないのが

人間です。小さな欲が強欲を

呼び、強欲は不満へと変わりま

す。不満は妬みや憎しみを生み、

やがて争いを生みます。私

たち人間は、小欲で満足する

ことはないのです。そこで、浄

土真宗のみ教えに気付かさ

れます。こんな私たちを救う

ために、阿弥陀さまは仏と成

られました。たとえ欲を抑えき

れなくても、極楽に生まれたい

という心をおこさせて、「南無

阿弥陀仏」と称えさせて、必

ず救うと、仰っています。